Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 25第37号
2025年（令和七年） 12月19日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ10階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

当週（12月11日～17日）の国際石油市場は、ウクライナ停戦交渉の進展観測、国際エネルギー機関（IEA）の2026年の大幅な需給緩和予想の維持、など軟化要因を中心に推移したが、17日には米・ベネズエラの緊張激化で反発した。

NYのWTI原油先物市場は、11日に反落の57.60ドルで始まり、4営業日続落し、16日には4年10か月ぶりの安値55.27ドルを記録したが、17日には55.94ドルに反発して、終わった。

また、中東産ドバイ原油/東京市場（12月渡し）も、前週（12月4日～10日）は62.40～64.50ドルの範囲で推移したが、当週は、12月11日62.00ドル、12日61.80ドル、15日61.40ドル、16日60.20ドル、17日59.70ドルだった。

対ドル為替レート（TTM）は、前週（12月4日～10日）155.15～156.88円の範囲で推移したが、当週は、12月11日155.87円、12日155.71円、15日156.02円、16日155.12円、17日154.69円だった。

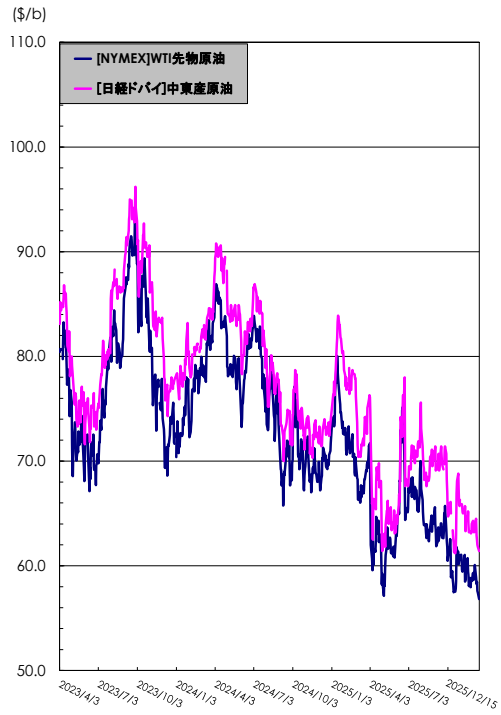
財務省が12月5日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、11月中旬の原油輸入平均CIF価格は68,035円/KLで前旬比1,325円/KL安、ドル建てでは71.44ル/Bで前旬比0.86ドル/B安、為替レートは1ドル/152.62円。また、12月17日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、11月下旬の原油輸入平均CIF価格は68,627円/KLで前旬比592円/KL高、ドル建てでは70.65ドル/Bで前旬比0.86ドル/B安、為替レートは1ドル/152.62円、

更に、11月月間の原油輸入平均CIF価格は68,598円/KLで前旬比1,291円/KL安、ドル建てでは71.21ル/Bで前旬比0.07ドル/B高、為替レートは1ドル/153.14円。

こうした中、12月15日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比4.0円安、軽油も同0.5円安、灯油は同1円高（18リットルベース）だった。ガソリンの全国平均価格は159.7円だった。

12月11日～30日の燃料油補助金の支給額は、ガソリンは25.1円、軽油は17.1円、灯油・重油は5.0円となった。

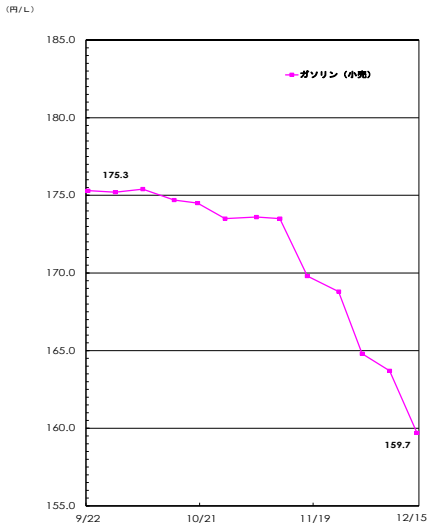
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	12/7 ~ 12/13	2,930	▲ 253	▲ －
	トッパー稼働率	（%）	〃	84.7	▲ 7.4	▲ －
	原油在庫量	（千kl）	12/13	10,688	▼ -139	▲ －
価格	中東産原油（日経ドバイ）	（$/bbl）	12/16	61.40	▼ -3.10	▼ -12.6
	WTI先物原油（NYMEX）	（$/bbl）	12/15	56.82	▼ -2.06	▼ -13.9
	原油CIF単価	（$/bbl）	11月下旬	70.65	▲ 0.07	▼ -9.58
	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	68,627	▲ 592	▼ -4,976
	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	154.43	▼ -1.19	▼ -8.58
	外国為替TTSレート	（¥/$）	12/16	157.02	▼ -0.78	▼ -2.10



（単位：千kl、円/ﾘｯﾄﾙ）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	在庫		12/13	1,729	▲ 54	▼ －
価格	先物 [期近物/終値]	（TOCOM/東京湾）	12/9 ～ 12/15	72.0	➡ 0.0	▼ -8.0
		（TOCOM/中部）	12/15	70.0	➡ 0.0	▼ -13.0
	小売 [週動向]	（資エ庁公表）	12/15	159.7	▼ -4.0	▼ -16.1

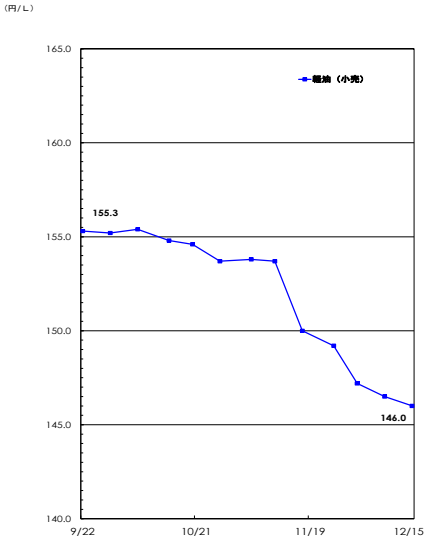
※先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/ﾘｯﾄﾙ）

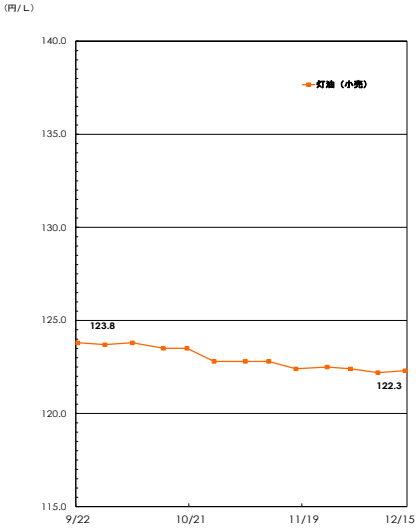
軽油			今週		前週比	前年比
需給	在庫		12/13	1,363	▼ -25	▼ －
価格	先物 [期近物/終値]	（TOCOM/東京湾）	12/9 ～ 12/15	73.0	▼ -0.1	▼ -10.1
		（TOCOM/中部）	12/15	－	－	－
	小売 [週動向]	（資エ庁公表）	12/15	146.0	▼ -0.5	▼ -9.4

※先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/ﾘｯﾄﾙ）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	在庫		12/13	2,371	▲ 21	▼ －
価格	先物 [期近物/終値]	（TOCOM/東京湾）	12/9 ～ 12/15	86.0	➡ 0.0	▲ 4.5
		（TOCOM/中部）	12/15	86.0	▲ 2.0	▲ 1.0
	小売 [週動向]	（資エ庁公表）	12/15	122.3	▲ 0.1	▲ 4.5



■ 関連情報

1　海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（12月4日～10日）のNYMEX・WTI先物市場は、58.25～60.08ドルの範囲で推移した。

当週12月11日は、ウクライナ和平交渉をめぐり、ロシア外相が米国特使との会談で、誤解は解けたと発言、ドイツのメルツ首相は、ウクライナが領土譲歩を含む新提案を米国に送ったと発言するなど、進展が期待されるとの見方から、反落し、10月下旬以来、約1か月半ぶりの安値を付けた。また、この日発表の国際エネルギー機関（IEA）の月報は、26年の需要を上方修正、供給を下方修正、20万BD弱需給緩和は縮小されたものの、その幅はわずかであったため、ほとんど影響はなかった。ただ、米軍のベネズエラのタンカー拿捕で、両国の緊張はさらに激化、下値は重かった。1月物終値は前日比0.86ドル安の57.60ドル。

週末12日は、前日同様弱含んだ。ウクライナのゼレンスキー大統領は、米国の親提案には、ロシア占領中の東部ドネツク州を経済特区とすることを含んでいるとして、領土譲歩を示唆したことで、和平期待はさらに高まり、わずかながら続落した。1月物終値は前日比0.16ドル安の57.44ドル。

週明け15日は、ゼレンスキー大統領が、米欧による安全保障が保証されるならば、NATO加盟を断念すると発言、和平交渉の合意が近いものと予想され、ロシアの供給増加観測から、また、中国の11月の鉱工業品生産額が前年同月比4．8%に止まり、経済減速が予想されることから、続落した。1月物終値は前週末比0.62ドル安56.86ドル。

16日は、米国・ウクライナ・欧州諸国の当局者は、14・15日ドイツで、ウクライナ和平案について協議、トランプ大統領も、和平は「かつてなく近づいている」と発言するなど、和平進展観測は一段と高まり、供給過剰懸念も高まったことから、4営業日続落、4年10か月ぶりの安値を記録した。1月物終値は1.55ドル安の55.27ドル。

17日は、トランプ米大統領が、ベネズエラの制裁対象タンカーに入出港を禁止、マドゥロ政権をテロ組織に指定したと発言、ベネズエラ原油への供給不安が拡大し、5営業日ぶりに反発した。ただ、この日発表のEIAの米国石油在庫報告は、原油が市場予想並みの取り崩しであったが、ガソリン・中間留分が市場予想を上回る積み増しで、市況は伸び悩んだ。1月物終値は0.67ドル高の55.94ドル。

2　海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局（EIA）の12月17日発表の12日現在の米国在庫週報によれば、原油在庫は前週末比130万バレル減と市場予想（110万バレル減）にほぼ同じ取り崩しだったが、ガソリンは480万バレル増（予想210万バレル増）、ディスティレート（留出油）は170万バレル増（同120万バレル増）と予想を上回る在庫の積み増しだった。このため、上値は重かった。

EIAによると、12月15日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比4.5セント安の1ガロン2.895ドル（119.9円/㍑）と4週連続の値下がりで、ディーゼル小売価格も、前週比5.8セント安の1ガロン3.607ドル（149.4円/㍑）と4週連続の値下がり。

ベーカーヒューズ社によると、12月12日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比1基増の414基であった。

3　国内/原油処理量

石連週報によれば、2025年12月07日～12月13日に休止したトッパー能力は3.5万バレル/日で、前週に対して1.6万バレル/日減少した（全処理能力は311,0万バレル/日）。

原油処理量は310.7万klと、前週に比べ17.6万kl増加。前年に対しては25.2万klの増加。トッパー稼働率は89.7%と前週に対して5.0ポイントの増加、前年に対しては7.2ポイントの増加となった。

4　国内/製品在庫量

12月13日時点の在庫は、前週に対してガソリン、ジェット、灯油・A重油は取り崩し、軽油、C重油は積み増しとなった。

ガソリンは171.4万kl、前週差1.4万kl減。前年に対しては13.0万kl少ない。

灯油は227.3万kl、前週差9.8万kl減。前年に対しては17.1万kl少ない。

軽油は142.7万kl、前週差6.5万kl増。前年に対しては3.4万kl少ない。

A重油は74.5万kl、前週差3.9万kl減。前年に対しては0.3万kl多い。

C重油は164.4万kl、前週差4.7万kl増。前年に対しては1.5万kl多い。

（単位：千KL）

	今週 (12/13)	前週 (12/6)	前週比	
ガソリン	1,729	1,675	▲ 54	(3%)
ジェット燃料	779	806	▼ -27	(-3%)
灯油	2,371	2,350	▲ 21	(1%)
軽油	1,363	1,388	▼ -25	(-2%)
A重油	784	791	▼ -7	(-1%)
C重油	1,597	1,621	▼ -24	(-1%)
合　計	8,623	8,631	▼ -8	(-0.1%)

5　国内/元売会社製品卸価格

12月10日～16日のドル建て中東原油価格は前週比値下がりし、為替レートはほぼ横ばいで、18日からの元売会社の卸建値は値下げだったものと見られる。

さらに、12月11日以降の揮発油の補助金は、5.1円増額の計25.1円で、暫定税率廃止に伴う減税額と同額になった。他の補助金は、軽油が17.1円、灯油・重油が5円で据え置きだった。ガソリンの補助金は、12月31日に、旧暫定税率（現：当分の間税率）と同時に廃止となる。

6　国内/製品小売価格

12月15日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比4.0円安の159.7円、軽油も同0.5円安の146.0円、灯油は18㍑ベースで同1円高の2,201円（1㍑ベースでは同0.1円高の122.3円）。ガソリンは6週連続の値下がり、軽油も6週連続の値下がり、灯油は3週ぶりの値上がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりはなし、横ばいもなし、値下がりは全47都道府県だった。全国最安値は埼玉県の153.0円、その次は宮城県の153.1円であった。他方、最高値は鹿児島県の171.1円。最も値下がりしたのは福井県（前週比5.7円安）、値下がり幅が最も小さかったのは秋田県（同1.8円安）だった。

次回調査時（12/22）のガソリンの小売価格は、値下がりが予想される。

（単位：円/㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週 (12/15)	前週 (12/8)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	159.7	163.7	▼ -4.0	2023/9/4 2025/4/14	186.5
	灯油	122.3	122.2	▲ 0.1	08/8/11	132.1
	軽油	146.0	146.5	▼ -0.5	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）に掲載しています。
次回（2025第38号）の公表は、12/26（金）14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉

石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈 WTI先物原油、中東産原油 〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場（取引の中心限月）の午後の中値を採用。 ※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁ーHPに掲載）。